

## 盲ろう者通訳・介助者養成研修の実施方法について

### (現状)

- 盲ろう者通訳・介助者養成研修の修了者で、活動実績のある者は以下のとおりであり、稼働率は高いといえない状況になっている。
- その背景には、無料で受講できるため同行援護研修の修了を目的とし、盲ろう者支援を行っていただけない者（いわゆるフリーライダー）の受講が横行している（同行援護研修の受講費用は2～3万円、盲ろう通訳研修は無料）ほか、サブカルチャー的に受講する者が一定数いると思われる。

### 【活動状況】

平成 28 年度	修了者	37 人	活動実績のある者	25 人 (67.6%)	活動実績のない者	12 人 (32.4%)
平成 29 年度	修了者	38 人	活動実績のある者	26 人 (68.5%)	活動実績のない者	12 人 (31.5%)
平成 30 年度	修了者	34 人	活動実績のある者	25 人 (73.6%)	活動実績のない者	9 人 (26.4%)
平成 31 年度	修了者	36 人	活動実績のある者	25 人 (69.5%)	活動実績のない者	11 人 (30.5%)

### 【今年度の養成研修の受講申込の際の志望動機について】

- ・40名の受講申込者のうち、盲ろう者通訳・介助者として活動したいと書いている者は2名にとどまり、残りの者は現在の仕事（グループホームやデイサービスの職員など）に生かしたい、街で盲ろう者をみかけたらサポートしたい、自分自身の経験につなげたいというものであった。

### (問題点)

- 前述の活動状況や志望動機から、通介者として盲ろう者支援を行っていただけない者の受講が横行していると思われる。
- 養成研修は、盲ろう者支援を行っていただける者を養成することが目的であるが、現状、同行援護一般課程の修了証を目的とする者やサブカルチャー的に受講する者などが多く、盲ろう者支援につながっていない実情がある。

### (対応策)

- 受講対象者について、現行は「盲ろう者福祉に熱意があり、盲ろう者通訳・介助者として活動する意思のある方」であるが、これを「盲ろう者福祉に熱意があり、盲ろう者通訳・介助者として活動することを誓約する方」に改める（活動することの誓約は、受講申込書の中で誓約させることとする）。
- 同行援護一般課程の修了証を目的として、盲ろう者通訳・介助者養成研修を受講する者については、資料1の考え方により、できるだけ早期に、盲ろう者通訳・介助者養成研修を修了すれば、同行援護従業者一般課程を修了した者として、修了証を交付する取扱いを廃止することで調整を進めていく。
- 盲ろう者通訳・介助者養成研修を修了した者へのOJTを実施することで検討を進める。
- 盲ろう者通訳・介助者養成研修では、現任研修と同様に、今年度、通介者の過失により盲ろう者が怪我をする事案が2件発生したことからも、通介者として最低限求められるべき水準の理解に達していないと判断される者を通介者として登録することは適当ではなく、養成研修の修了時に実施する試験の成績が一定以下の者については、養成研修を修了させない、すなわち通介者として登録しない取扱いを徹底することとする。